

# 施設だより愛の園

第 32 号  
2022/12

## 愛の園の使命

平和をつくり出す人たちは、さいわいで  
ある、彼らは神の子と呼ばれるであろう。

(マタイ五章九節)

社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会

愛の園 統括園長 信川恒夫



私たちのぶどうの枝福祉会は、一九九一年に創立され早三十年以上が経ちました。更に、故齋藤信男理事長が一九七四年に日本ホーリネス教団神戸教会の地域貢献として始めた「ゆりか愛育園」の設立からは、もうすぐ半世紀が過ぎようとしています。

先日、愛の園の竣工式(一九九三年四月)で、齋藤理事長が話された式辞文の原稿を見る機会が与えられました。少し長くありませんが、その一部をご紹介します。

『……皆さん。どうかこの小さなホームではございますが、どうぞかわいがっていただきまして、行末長くご支援を頂きたいと、心からお願ひ申し上げます。愛の園の運営方針はその名の通り、「愛する」ということとございます。信仰は自由なので強制はしませんが、キリスト教の愛の精神、聖書が教えております愛を土台にして、お年寄りをお守りしたい、そのような方針で進めていきたいと思ひます。

それは、イエス・キリストが言われた「自分を愛するよう

に、あなたの隣人を愛しなさい」と言われた隣人愛でございます。つまり、人のことではなく、自分のこととして愛する、それが聖書の言う隣人愛でございます。また、「平和を作り出す人たちは、幸いである。」とも言われました。人間は誰でも平和を愛します。しかし、「平和を愛する。」ことと、「平和をつくり出す。」ということは別です。

私は、この間職員研修会の時に、「平和をつくり出す」この言葉を皆さんの標語にしてほしいと、くれぐれも言っておいたのでございます。この標語が崩れないように願っております。平和な、愛で満ちた園でありたい。そのことを心から願っております。……

まだ生まれたばかりのこのホーム、どうぞみなさんの良きご指導を心からお願ひ申し上げまして、式辞とさせていただきます。』

今改めて読み返しましても、二十九年前のこの内容は決して時代を感じさせません。改めて、ぶどうの枝福祉会の足跡を振り返りますと、いつも神様に守られてきました。三十年余りの間に、光の子保育園、ゆりか保育園、愛の園と多くの施設が建てられ、多くの職員、ご利用者の皆様に支えられて、運営がなされてきました。心から感謝申し上げます。

さて、昨年の七月に開業した「愛の園シオンの丘」一階部分の入居が、いよいよ始まりです。職員採用の遅れからフルオープンの子定が、大幅に遅れてしまいました。故齋藤信男理事長の篤い思いを胸に、改めて「平和をつくり出す」人材育成と施設運営を行っていききたいと思ひます。

最後になりましたが、来る二〇二三年が皆様にとって豊かな年でありますよう、お祈り申し上げます。